

日本海沿岸漁場造成効果調査（第2岩崎地区）（要約）

遊佐貴志

目 的

第2岩崎地区の増殖場内の礁体（円形セピア、πブロック、コーケンブロック）と周辺の天然藻場において、ホンダワラ類等海藻の生育やハタハタの産卵状況を調査し、増殖場の造成効果を把握する。

材料と方法

1 ホンダワラ類の生育状況調査

平成27年7月、平成28年3月に増殖場内の礁体において、ホンダワラ類などの海藻の生育状況を調査した。

2 魚類等の生息状況調査

平成27年7月、平成28年3月に増殖場内の礁体において、魚類の生息状況を調査した。

3 ホンダワラ類葉上動物の生息状況調査

平成27年7月、平成28年3月に増殖場内の礁体において、ホンダワラ類葉上の無脊椎動物の生息状況を調査した。

4 ハタハタの産卵状況調査

平成28年3月に増殖場内の礁体とその周辺の天然藻場において、ホンダワラ類に産み付けられたハタハタ卵塊の付着状況を調査した。

結 果

1 ホンダワラ類の生育状況調査

増殖場内におけるホンダワラ類は、平成27年7月にフシスジモク、アカモク、フシイトモク、ミヤベモク、マメタワラ、スギモクの6種が観察され、平成28年3月にフシスジモク、トゲモク、ヨレモクの生育が観察された。増殖場内ではフシスジモクが優占する地点が多く、その現存量は最大で、平成27年7月に1,334.8g/m²、平成28年3月に9,548.0g/m²であった。

2 魚類等の生息状況調査

増殖場内における魚類は、平成27年7月にウミタナゴ、アカメバル、アイナメ、ブリ、マダイ、クロダイ、クサフグが観察された。平成28年3月には魚類は観察されなかった。

3 ホンダワラ類葉上動物の生息状況調査

増殖場内におけるホンダワラ類葉上動物は、平成27年7月に節足動物が端脚目（ワレカラ類、ヨコエビ類）12種、等脚目（コツブムシ類、ヘラムシ類、スナホリムシ類、ミズムシ類）6種、アミ目1種、クーマ目1種、十脚目3種、軟体動物7種が観察された。多くの地点で端脚目が優先しており、その現存量は最大でホンダワラ類1個体あたり1.7650gであった。平成28年3月には端脚目7種、等脚目1種、軟体動物9種が観察された。多くの地点で端脚目が優先しており、その現存量は最大でホンダワラ類1個体あたり0.6526gであった。

4 ハタハタの産卵状況調査

増殖場内では、ホンダワラ類を含む全ての海藻でハタハタ卵塊の付着は観察されなかった。天然藻場では、一つのヤツマタモクにハタハタの卵塊1個の付着が観察されたのみだった。さらに、その卵塊も孵化済みで崩壊していたため、調査時期の遅れにより卵塊の流出後の調査になったと考えられた。